

28:23 そこで彼らは日を定めて、さらに大勢でパウロの宿にやって来た。パウロは、神の国のことを証しし、モーセの律法と預言者たちの書からイエスについて彼らを説得しようと、朝から晩まで説明を続けた。

28:24 ある人たちは彼が語ることを受け入れたが、ほかの人たちは信じようとしなかった。

28:25 互いの意見が一致しないまま彼らが帰ろうとしたので、パウロは一言、次のように言った。「まさしく聖霊が、預言者イザヤを通して、あなたがたの先祖に語られたとおりです。

28:26 『この民のところに行って告げよ。あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。』

28:27 この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らがその目で見ることも、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』

28:28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らが聞き従うことになります。」

28:29 【本節欠如】

28:30 パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、

28:31 少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

創世記で人類の救いを宣言なさった神様は、イエス様の十字架によって救いの道を備え、さらにユダヤ人の救いと思われていたものを、異邦人すなわち

全人類のものとなされました。

そのために「聖霊が…臨むとき、あなたがたは力を受けます。…証人となります。」とイエス様が言われたとおりに、聖霊を注ぎ、それによって変えられた人々が、聖霊の働きによる救いを世界へと広めていったのです。

パウロはそのことを聖書の預言から確信し、神様の導きに従いローマまで来て、「大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた」のです。

神様の偉大なご計画とその御心に従った人々の壮大な歴史的事実です。

この書の終わりは何かまだ続きがあるような感じがします。その後のパウロはどうなったのか？ またはそれぞれの教会はどうなったのか？ などについては記されていません。

実は「使徒の働き」はまだ続いているのです。そしてその登場人物は私たちです。自分自身の人生や伝道のわざはどのように天の書に記されるでしょうか。自分自身が使徒の働きに記される一人であることを自覚しつつ歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

